

三味線の演奏で多くの人に
楽しんでもらいたい

三味線奏者 平山 由香利

ここに書ききれないエピソードや写真は当別町ホームページ「現代を生きる^{プラス}」でご覧ください。



塾の教室長として受講生に勉強を教える傍ら、イベントや老人ホームなどでボランティアとして三味線を演奏し、当別町文化祭にも出演する平山由香利さんに話を伺いました。

三味線との邂逅

東京都出身で、小学校入学前に千葉県のご両親の家に移り住みました。祖父は本業である自転車屋の仕事とは別に、三味線の師範代として自宅の一室で指導していました。そこから聞こえてくる音色と祖父が演奏する姿に憧れ、小学校2年生頃から祖父より熱心な指導を受け始めました。当初は撥で三味線の弦を叩いて音を出すことや、三味線が重く、左手で支えるのに苦労したことを覚えています。

上達への旅路

小学校4年生から6年生までの間、他校の音楽の授業でボランティアとして演奏していました。そこで自分の演奏が平凡だと見られるのが嫌だったのと、人前で演奏して褒められたかったのが、空いている時間は練習に打ち込んでいました。

中学に入ると練習量に比例して演奏も上達し、祖父が体調不良や旅行などで不在時に、代役として教えられたらと思っていました。三味線の大会には中高ともに部活の関係で出場できませんでしたが、中学校3年生の学校祭で後輩と2人で演奏したのは良い経験だったと思います。

大学に入って一人暮らしを始めると、実家に帰ったとき以外は三味線を弾いていませんでした。就職して釧路に3年間住んでいた時も同じでしたが、祖父が亡くなったことをきっかけに三味線を譲り受けました。その後、練習を再開し、転勤先の当別町で文化祭などのイベントや老人ホームでボランティアとして演奏するようになりました。親の影響で、小さい頃から様々な方と交流する機会があったので、ステージでは緊張せずに演奏ができます。

三味線の魅力

きちんと弦を叩けば音が出るという意味では扱いやすい楽器だと思うのと、音色や癖は楽器ごとに異なり、その微妙な違いや細部の調整などを自分で感じ取りながら

演奏できるのが魅力だと思います。また、同じ曲を複数人で演奏すると、メロディーラインは同じでも、響き方や表現の仕方は奏者によって違います。さらに、歌手ごとの得意な音程に合わせて演奏できることも、三味線の魅力の一つです。

みんなを楽しませたい

長い間、三味線を演奏してきたので、その技術を活かし、多くの人に楽しんでもらいたいと思っています。ただ、上手く演奏できなければ次に呼んでももらえない可能性もあるので、プレッシャーを感じながら演奏しています。

受講生によく伝えていることは、「勉強はとても大切だけれど、部活動や他の習い事を続けることも結果につながるという意味で大切だ」という考え方です。自身の活動を通じて何かを伝えられれば嬉しいと思っているので、この活動を続けていくことも一つの目標としています。

11月2日の文化祭で13時15分から演奏します。ぜひお越しください。